「スマートフォン市場動向レポート 2012」を販売開始

報報道関係者各位

平成２４年３月２２日
株式会社クロス・マーケティング
（東証マザーズ 3629）

「スマートフォン市場動向レポート 2012」を販売開始

～“ケータイ＝スマホ”時代で起きること～

■■要約■■

マーケティングリサーチを行う株式会社クロス・マーケティング（代表取締役社長五十嵐幹東京都中央区）は、IT関連市場調査会社である有限会社ボイスワーク（代表取締役社長 西村毅 東京都中央区）が提供する調査レポート「スマートフォン市場動向レポート 2012」の販売を開始しました。

詳細ページ: http://www.cross-shop.jp/shop/goods/$/id/8785/

■■資料概要■■

2011年度（*2）のスマートフォン契約数は前年度比307.9%の3,013万件となる見込みです。今後も力強い伸びが予想され、2016年度（*3）には1億1,480万件に達する見通しです。
市場の伸びと共に、キャリア間の競争も激しさを増し、なかでも人気端末を巡る動きは激しくなりそうです。最近では人気端末「iPhone4S」の発売においてキャリア間で激しい攻防戦が繰り広げられました。ガラケーとは違いスマホでは海外メーカーからの調達も容易であるため、キャリアの手腕が注目されます。またキャリア以上に人気端末を必要とするのは、他でもない端末メーカーです。スマホ需要は、近年の販売台数の低迷に苦しんできた端末メーカーにとって大きなチャンスとなっています。さらにスマホ需要は、部品メーカーにとっても大きな商材となっています。国内部品メーカーの多くが、世界中のスマホ向けに高いシェアを誇っているため、不振の液晶テレビ需要の落ち込みを補完するほどの存在となっています。
スマートフォンの販売台数見通しは、2011年度が前年度比270.5%となる2,260万台、今後も高い成長率で推移、2016年度には4,000万台規模へ拡大する見通しです。
本レポートでは、スマートフォンの市場規模、キャリア別シェア、端末やユーザー動向など主要となる調査項目をはじめ、スマホ時代到来によって何が起きているのか、他分野への影響も含めて分析、レポートしています。

■■主な調査概要■■

■主なポイント

◇市場規模（契約数）

・スマホシフトの流れ、さらに加速。2011年度のスマートフォン契約数は前年度比307.9%となる3,013万件を予測、携帯市場全体の2割超へ。

・今後も急速な増加が見込まれ、2016年度スマートフォン契約数は1億1,480万へ。携帯市場全体の約65%を占める見通し。

・2011年度の各キャリアにおけるスマートフォン占有率は、NTTドコモが約17%、au（KDDI）約18%、ソフトバンクが約40%を占めている。

・スマートフォン本格普及の影響は、携帯電話市場だけに留まらず、ゲーム機携帯音楽プレーヤ、デジタルカメラ、電子辞書など他分野にも影響、一部の需要を浸食している。今後もスマートフォン上で可能なアプリや機能は数多く発生するため、こうした傾向は拡大する見込み。

◇ユーザー動向

・iPhoneブームや端末数の増加に伴い、既存のケータイ端末（フィーチャーフォン）からの乗り換え環境が整う。20～40代だけでなく、高齢者にも普及が進みつつある。

・高性能スマートフォンの登場で、ユーザーのライフスタイルが変わり、提供されるサービスも多様化へ。

・MNPの決め手は、人気端末の有無が大きな要因に。人気端末やキャリアの仕掛け（キャンペーン）によって、MNPの変動も活発化する傾向。

◇キャリア動向

・スマートフォン拡大により、データARPUが順調に増加。
今後は音声ARPUの底を探りながらARPU全体の向上に努める。
・トラフィック対策が、キャリア全体にとって急務に。通信障害はイメージダウンにつながりやすく、各社神経質に。ある程度の設備投資増加は避けられない傾向に。

・できる限り他社との差別化を図りたい。しかし、単なる値下げでは短期的な効果はあるが、中長期的な効果は望めない。付加価値の高いサービス提供が必要、それには他分野（企業）とのパートナーシップ構築が鍵。

◇端末動向

・2011年度のスマートフォン販売台数は、2011年度のスマートフォン販売台数は、前年度比270.5%となる2,260万台を予測。

今後もスマホ中心の端末攻勢は変わらず、2016年度には4,000万台規模へと拡大する見通し。

・OSシェアは、iOS独占状態は終焉しAndroid中心の形成に。今後の焦点はiOSのアドバンテージがどこまで維持できるか。そしてWindowsPhoneの巻き返しに注目。

・スマホ主流化で端末メーカーも変わる。ここ数年、国内の販売端末が低迷したこともあるが、スマホはガラケー端末とは違い、海外進出しやすい。海外市場における販路拡大は簡単ではないが、ターゲット市場が広がるなかで端末メーカーの可能性も広がりつつある。部品メーカーも同様、スマホ本格化を歓迎。

■■ 調査概要 ■■

【調査方法】
携帯電話キャリアおよび関連企業（販売ショップ等）への直接取材および電話取材

【調査期間】
2011年3月 ~2012年2月

■■概要■■

資 料 名：スマートフォン市場動向レポート 2012
発 刊 日：2012年2月24日
発 行：有限会社ボイスワーク
販 売：株式会社クロス・マーケティング
判 型：A4版/104頁
価 格：
■CD-ROM版 ¥115,500（本体 ¥110,000＋消費税 ¥5,500）
■製本＋CD-ROM ¥126,000（本体 ¥120,000＋消費税 ¥6,000）
別途送料500円

※「携帯電話市場動向レポート2012」（http://www.cross-shop.jp/shop/goods/$/id/8779/）と2冊同時購入の場合は下記金額で、ご提供いたします。

(1)CD-ROM(PDF) ¥168,000（本体2冊¥160,000＋消費税¥8,000）
(2)CD-ROM(PDF)+製本 ¥189,000（本体2冊¥180,000＋消費税¥9,000）

詳細・お申込み http://www.cross-shop.jp/shop/goods/$/id/8785/

■■株式会社クロス・マーケティングについて■■

株式会社クロス・マーケティングは、国内150万人超の大規模モニターを軸に、生活者の「生」の声を主にインターネットを活用して収集するマーケティングリサーチ会社です。
生活者の嗜好の多様化や、商品サイクルの短期化に対応するため、ネットリサーチの優位性である「スピード」「コスト」に加え、「品質」を最大限に重視

したリサーチサービスを展開しています。
調査企画から設計、実査、集計・分析レポートまで、マーケティングリサーチに関するあらゆるサービスをトータルにサポートいたします。

■■株式会社クロス・マーケティング会社概要■■

名称：株式会社クロス・マーケティング
本社所在地：東京都中央区銀座8丁目15番2号銀座COMビル6Ｆ
代表者：代表取締役社長 五十嵐 幹
設立：2003年4月
URL：http://www.cross-m.co.jp/

■■ 本件に関するお問い合わせ先 ■■

株式会社クロス・マーケティング
Cross Shop 販売窓口担当
Tel： 03-3549-1319
Fax： 03-5565-1555
Mail： cs-info@cross-m.co.jp
Facebook：http://www.facebook.com/crossshop.jp
twitter：http://twitter.com/cross_CS

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com